

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901238		
法人名	アート園 有限会社		
事業所名	グループホームアート園	ユニット名	浦田3番地
所在地	福岡県福岡市博多区浦田1丁目12番12号		
自己評価作成日	平成23年11月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方たちが、来園された時や通りがかった時などに玄関の前で季節感を感じられるように園芸の整備に心掛けています。それに、地域の方とのふれあいが積極的に出来る様に週に1回近所の方にボランティアでレクリエーション活動など行ってもらっています。これからも、ますます地域の方とふれあいや交流が出来る様にしていきたくと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年11月30日	評価結果確定日	平成24年3月1日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、申し送りのあとにその日のリーダーと唱和しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	第1月曜日は、毎月地域の方とふれあいサロンへ出向き地域の方とのふれあいに努めています。また第2日曜日と毎月26日には、地域の公園清掃に参加し、又地域の小学校の廃品回収にダンボール、新聞など提供し協力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年1回園を見学に来て頂きいつもの風景を見てもらい、その際スタッフが説明しています。夏祭りの参加敬老会への参加バザーへの協力、選挙の投票にいかれてます。又中学生の職場体験受け入れ、園の祭りの参加などして頂いています。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で活動報告や次回の予定など話しています。また意見交換で地域の行事など伺ったり、献血など協力させて頂いたり消防訓練、AEDの講習など参加させて頂いてます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括センターが近くにあり、情報交換や相談などをしやすいです。また、市役所の方へ出向き地域密着型グループホームとしての活動についてと、自然災害時の園の対応について、質問し助言等頂きました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の生活を利用者の方たちが、落ちついて過ごして頂けるような声掛けやケアを行うことで、身体拘束などを行わないで安心して生活できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束は、毎年勉強会に取り上げ全員周知しています。その都度ミーティングを行い、入所されて間もない利用者の方へはお互い信頼関係を築いていき、さりげない見守りをし拘束しなくても穏やかに暮らせるように統一ケアをしています。	

福岡県 グループホーム アート園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料作成しており、全てのスタッフが常に学べるように準備し日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解出来る様にしてある。資料については、各フロアファイリングしてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に料金面や医療体制、また事業所のケアに対する方針を伝え重度化や看取りについての要望を伺っている。家族や利用者の疑問点を尋ね説明を行い納得、理解して頂くようにしている。また、園での対応可能な範囲についても説明している。利用者の状態変化で園生活に不都合が生じた場合は家族と今後の対応を相談し進めるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満・苦情などは個別にお話を聞くようにしている。民生員の方に苦情係をお願いし、また施設長にも折にふれ顔を出され利用者の方のお話を聞く機会があり、出た意見は各ユニットで話し合いをし、今後のケアに活かせるよう努めている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会に施設長も参加されており、その時にスタッフの意見交換出来る場がある。また管理者も通常の業務に参加しており、スタッフの意見や提案を聞ける状態にある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長と管理者が話し合いを行い、各スタッフの勤務状況を把握し向上心を持って働けるように条件や整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集は、性別や年齢等を理由に排除せず、年齢が高くても健康であれば採用するようにしている。現在も、男性、女性の職員、幅広い年齢の職員が在職しており、採用後も外部研修や勉強会を行い、その能力を発揮出来るよう配慮している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に行ったスタッフの資料を基に、全職員に勉強会を通して、利用者に対して人権を尊重するように、より理解を深めるように取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム アート園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員を段階に応じて、研修を受講できるようにしている。また、参加報告書を作成し、全職員が閲覧出来る様にしている。新人職員に対しては、管理者の指示のもとユニット職員全員で、段階的(コーチング・ミーティング)を取り入れ育成に取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加する事により、他の施設の同業者と交流する機会があり、意見交換など行い参考にしサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に相談など聞き、面談など行うことで今までの生活状況を把握し、信頼関係を作るようにしている。本人の会話の中から困っていること、不安なこと、求めていることなどを理解し、受け入れられるように努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の時に本人とは別に、家族等が困っていること、不安なことを理解し事業所としては、どのような対応が出来るかなどを入居されるユニットの職員で話し合いを行い、受けとめられるように努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、本人や家族の必要としている支援を見極め、当園で出来ないサービスなどに対しては、他の機関のサービス(リハビリなど)利用に結びつけ対応出来る様に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、食事の準備や掃除洗濯など会話を行いながら一緒に行いお互い支えあうような関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族便りや電話等で、園の行事への参加を事前に呼びかけ、家族との楽しい時間を過ごせるようにや、家族との外出の時間など楽しんで頂いたりしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力等を得て、外出や外泊など行われ会われたり、電話などで連絡を取り合い面会へ来られ楽しい時間など過ごされるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方本人の意思など尊重しレクリエーションなどに参加してもらったり、気のあった利用者の方たち同志部屋を行き来でき楽しく過ごせるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても今までの関係を大切にし相談などに応じ情報の提供など行える様にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活で会話している時等に何か思いや希望などあれば常に聞けるようにし家族の希望もあれば、それにそえるよう検討している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に話を聞いたりサービスを受けられていた機関の情報提供書などでこれまでの経過等把握出来る様にしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり個別の記録に残すことでその方の現状がわかる様にしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見や家族の意見も聞き本人の現状で課題やその方にあった援助が出来るよう話し合い介護計画を作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をもちい、その方の状態が常に見えるようにしスタッフ間で情報が共有出来るようにし介護計画に活かせるようにしている。		

福岡県 グループホーム アート園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いつもは、家族と外出を行ったり受診されるが、家族の都合により出来ない場合などもスタッフ間の調整を行い休日にもボランティアとして外出に同行したりしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園の隣の公園でのリクリエーションやポンプ場で行われる地域の活動と一緒に参加され楽しまれたりされている。(サロン等)		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にしかかりつけ医に受診できるようにしている。(昔からかかっている整形外科など)		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々バイタル測定を行い状態を観察しスタッフ間で情報を共有し異常がある場合には、主治医へ連絡し報告相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を取り合い相談など行い早期に退院出来き園での生活にもどれるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明を行い家族の希望など聞き終末期に向けた意向などをきいている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は、急変時や事故発生時に備えて応急手当や初期対応の訓練など定期的に勉強会などで学んでいる。		

福岡県 グループホーム アート園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	園内で利用者の方たちも一緒に参加される避難訓練を実施している。災害時には地域の方に協力をえられるように運営推進会議のときなど協力をもとめている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりにあつた声掛けを行いその方が自信がもて気分が落ち込まないように注意している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、何か希望があれば利用者の方が気軽に表すことが出来る様に働きかけている。話などよく行いコミュニケーションとりその中で希望などあれば聞くようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間になれば、声掛けなど行うが本人がまだよく寝たい時や遅くまで起きてテレビなど見ていたいときなど支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を着ていただいたり、出張の理美容室によりカットやカラーリングなど本人の好きなようにしていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の能力にあつた準備や片付け等手伝っていただいている(もやしの根とりや野菜カットなど)		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量などは、日々記録し確実に摂れるよう支援し、その方にあつた食事の形状で提供している。(キザミ食など)		

福岡県 グループホーム アート園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け行い、口腔内清掃、ケアを行っている。自分で出来ない方などは、スタッフが入れ歯などポリデントを使用し、清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時には、チェック表に時間と尿か便かパットなど使用したかなど記入し排泄パターンを把握し支援に役立てている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操を、行い利用者の方たちに参加していただいたり食事は、その方にあった形状(きざみ、ミキサー食)など提供している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、現在決まっているが本人の希望などあればシャワー浴だが支援出来る様になっている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握しその方にあった声掛けや眠前薬の使用などにより夜間良眠出来るよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明を読んだり薬局の薬剤師の説明などを聞き理解したうえで服用していただくよう支援し服用後きちんと服用し飲み込まれたかの確認を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方にあつた役割が出来る様に考えプランにそって支援している。(フロアー掃除や食事の準備、食器洗い等)		

福岡県 グループホーム アート園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望などあらかじめ聞いてスタッフ間で話し合い、家族などに伝えお芝居などに行ったりしている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理出来る方には、家族と相談した上でお金を所持し使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど家族へ利用者本人が書かれたハガキを出せるように支援したり希望があれば電話などフロアーから掛けられるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節を感じることを出来るように飾りなどや利用者の方の作品など展示している。日中ベット臥症して過ごされる方の部屋は眩しくないようにカーテンなど閉めて過ごしやすくしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーでは、日中それぞれ好きな場所へ座って過ごされたり仲がいい人の部屋に行かれ会話されたりして過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が昔から使い慣れたタンスや仏壇など持ってこられ居心地よく過ごされるようにしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の前には、個々のそれぞれの暖簾などをつけわかりやすくし、トイレの場所なども目印をつけわかりやすくしている。		